

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎作業学		必修	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	木曜日 10:40~13:00		
授業の目的・概要	本科目では、作業療法に近接する学問の基礎にも触れながら、治療として作業を用いることの目的やその有効性について理解することを目的とする。授業では講義、GW、演習を組み合わせ、作業に関する概説を理解したうえで作業の治療的応用まで検討する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期に解決し、授業の進行に合わせて理解を深めてほしい。 また、本科目では作業療法概論や解剖学、運動学などの知識も土台として必要となるため、それぞれの科目の基礎的事項について理解しておくことが望ましい。				
教科書	標準作業療法学 基礎作業学第3版/編:濱口豊太/出版社:医学書院/2017年				
参考書	標準作業療法学 作業療法概論第3版/編:岩崎テル子/出版社:医学書院/2016年 ひとと作業・作業活動 新版/著:山根寛/三輪書店/2017年 ICF 国際生活機能分類/編:障害者福祉研究会/中央法規/2002年				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業を分類することの基礎的事項について説明することができる。			OT(2)、(3)	
②	作業を分類することの基礎的事項について説明することができる。			OT(2)、(3)	
③	作業遂行について心理的な側面から説明することができる。			OT(2)	
④	ライフステージによって異なる作業の課題を比較しながら説明することができる。			OT(2)	
⑤	作業学習の指導法に関わる基礎的事項について説明することができる。			OT(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	【作業と治療の理解 (1)】 作業に関わる基礎的事項について学習する。	講義、グループワーク	教科書の該当箇所や資料を読んで予習する。事後には教科書の該当箇所や提示資料のポイントを整理する。		
2	【作業と治療の理解 (2)】 作業の理論とその役割について学習する① (カナダ作業遂行理論を通して人の作業を捉える)	講義			
3	【作業と治療の理解 (3)】 作業の理論とその役割について学習する②(AMPSを用いて作業遂行の質的側面をみる)	講義、グループワーク、演習			
4	【作業と治療の理解 (4)】 作業の理論とその役割について学習する③(人間作業モデルを通して人の作業を捉える)	講義、グループワーク、演習			
5	【作業と治療の理解 (5)】 作業遂行を人、環境、作業の視点から捉えることについて学習する (動画を観て人、環境、作業という3つの視点で対象者の作業について分析する)	講義、グループワーク、演習			
6	【作業と心理学 (1)】 心理的側面から作業を捉えることについて学習する(自己効力感などを題材にして)	講義、グループワーク、演習			
7	【作業と心理学 (2)】 心理的側面から作業を捉えることについて学習する (行動学習など)	講義、グループワーク、演習			
8	【ライフステージと作業療法】 青年期や高齢期の生活とその課題や、ライフステージを考慮した作業の適応について学習する。	講義、グループワーク、演習			
9	【作業と治療の理解 (6)】 レクリエーションを作業として用いることについて学習する。	講義、演習			
10	【作業と治療の理解 (7)】 コミュニケーションスキルを活用した作業療法面接について学習する。	講義、グループワーク			
11	【作業と心理学 (3)】 作業学習の指導法について学習する。	講義、グループワーク			
12	【治療への応用 (1)】 身体領域における作業の治療的応用について学習する。	講義、グループワーク			
13	【治療への応用 (2)】 精神領域における作業の治療的応用について学習する。	講義、グループワーク			
14	【治療への応用 (3)】 高齢期領域における作業の治療的応用について学習する。	講義、グループワーク			
15	【治療への応用 (4)】 障害をもつ人の参加について学習する。	講義、グループワーク			

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

試	定期試験 達成度評価、評価のポイント参照		
---	----------------------	--	--

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	0
総合力指標	知識・技術力	60	5	0	0	0	65
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		10	5	0	0	0	15

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	学期末に試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書・配布資料・口頭説明の内容に基づく問題が出題され、その理解度が問われる。	研究室(C308)で直接、またはリモート等で個別に振り返りを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①	✓	授業で得た知識を用いて、人の作業遂行に関する課題を課す。成績評価の主なポイントは、①提示された条件に沿って作成されているか、②自分の意見・考えを述べられているか、である。	提出課題へのコメントや、授業内での講評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	担当教員は作業療法士として10年以上の臨床経験を有する。
実践的授業の内容	臨床を通して得られた知見と照らし合わせながら、作業を捉えることの基本的事項について教授する。
そ の 他	大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性はある。